

エフエム八ヶ岳番組審議会報告

エフエム八ヶ岳はリスナーの皆様のご意見を番組制作に反映させ、より良い番組づくりの務めております。放送内容について皆様からのご感想、ご意見をお待ちしております。今後の番組制作の資料とさせていただきますので、どうぞお気軽にお寄せください。

■2020年2月

エフエム八ヶ岳の第161回番組審議会は2月22日、北杜市小淵沢町のエフエム八ヶ岳演奏所ホールで開かれました。議題は、昨年12月から今年3月までの月1度放送の新番組「小林節子と大前玲子のMovie Brunch」(毎月第1土・日曜午前10時から10時55分放送)。北杜市の「水の山」映像祭実行委員会が企画するラジオドラマ制作に向けてのプレ番組。「ドラマの設計図に当たる「シナリオ」について学びながらドラマ作りの魅力に迫るもので、映画とその音楽を題材に脚本家とフリーアナウンサーがその構造を楽しく探ります。放送内容について、審議委員6名、放送局から1名が出席し、意見を交わしました。委員からの主な意見は次の通りです。

- ・映画をテーマに女性2人が映画のシナリオを意識しながら、内容や音楽などを楽しく紹介する番組で好感が持てる。
- ・インド映画だが、一度見てみたいと思わせるお話だった。「きっと、うまくゆく」の底流にあるプラス思考が参考になった。
- ・二人の会話があまりにも自然体なので、心地よく聞き入った。過去の番組もホームページのアーカイブスで聞いたが、とてもさわやかな会話をされていて、興味をそそられた。二人の知性と品性のなせる業だと思う。
- ・この回だけを聞いたリスナーにとっては、分かりにくい部分があった。回を超えて番組がつながっているのなら、回ごとに説明をしてもらいたい。エフエム八ヶ岳のホームページにアーカイブスがあるので、前の回を聞くことができるので、やっと理解はできたが。
- ・放送時間が55分はちょっと長いと感じた。その分、挿入曲を増やしたらよいのではないかな。
- ・番組が将来、ラジオドラマの制作というコンセプトを持っているだけに、二人の話が映画の楽しさだけでなくその構造についても解説してくれて、映画を見たくなる。
- ・ラジオドラマを志向しているとのこと、地元の話題、民話などを題材にしてもらいたい。
- ・番組の中で「シナリオ・ワンポイント」というコーナーがあるが、ドラマ作りを目指す人には勉強になる。そうでない人にとっても、映画をさらに面白く見る目を養ってくれるように思う。
- ・「シナリオ・ワンポイント」は知識欲が満たされてよい。番組を聞いていて、「ちょっと得した感」「知識が一つ増えてよかった感」って、番組制作のキーだと思う。
- ・映画・演劇関係の番組の登場は、音楽番組「クラシック・アベニュー」「ジャズ 私のお気に入り」だけでなく、美術関係の番組「アートカフェ@ラジオ」と並んで文化田園都市・北杜の実現に一役買ってほしいと願っている者としては、うれしい限り。ラジオ文化がもっともっと広がっていくとよい。